E2TS/E2T

本科１期６月度

解答

Ｚ会東大進学教室

高２難関大英語Ｓ

高２難関大英語

8章　形容詞・形容詞句・形容詞節

問題

【1】

A.

ポイント

名詞を修飾する語句を形容詞と呼ぶが，これにはさまざまな種類・用法がある。ここで代表的な形容詞について概観してみる。

解答・解説

（1）　the three tall boys

「あそこにいる３人の背の高い少年は誰ですか。」

○名詞を修飾する形容詞の順番は，一般に「冠詞（冠詞相当語）＋数量形容詞＋性状形容詞＋形容詞用法の名詞＋名詞」の順になる。

e.g. these four beautiful fashion models

（2）　The first five days

「旅の始めの５日間は曇だった。」

○序数詞と数詞の語順は，序数詞が先となる。

（3）　Two thirds

「アメリカ人の３分の２は太りすぎだと言われている。」

○「３分の１」は one third であるが，「３分の２」は two thirds と複数形になる。

（4）　forty thousand

「約４万人の人々がスタジアムで決勝戦を楽しんだ。」

○ 40 は fourty でなく forty。単位を表す場合，thousand や hundred，million などはすべて単数形で記す。これらが複数形になるのは，thousands of ～（何千もの～）のような場合に限られる。

（5）　The boy was afraid and burst into tears.

「その少年は怖くなって突然泣き出した。」

○形容詞には名詞を直接修飾する限定用法と補語として働く叙述用法がある。afraid は限定用法では用いず，もっぱら叙述用法で使用される形容詞である。

（6）　The rich are

「金持ちがいつも幸せとは限らない。」

○ ‘the ＋形容詞’ は，「～な人々」という意味を表すことがあるが，その場合は複数扱いとなるので，The rich are not always happy. = Rich people are not always happy. となる。なお，the rich people と言うと「特定された金持ちの人たち」を指す。また，not always は部分否定で「常に～というわけではない」の意味となる（詳細は ‘否定’ の回で扱う）。

（7） quite a few

「私の先生はかなり多くの文法ミスを見つけた。」

○ little は不可算名詞を形容する一方で few は可算名詞を修飾する。

○ quite a few ＝ not a few「かなり多くの（可算）」

○ quite a little ＝ not a little「かなり大量の（不可算）」

（8） made little progress

「彼は懸命に勉強したが，ほとんど進歩がなかった。」

○ progress は（特定している場合を除き）不可算名詞として扱うのが普通。不可算名詞を修飾する形容詞として，a little は「少しある」という意味で肯定的だが，little は「ほとんどない」という意味で否定的になる。

（9） Much of the furniture has

「その家具の多くがアンティークとしての価値がある。」

○ furniture は不可算名詞の代表格であり複数形にはしない。そのため可算的な many ではなく much にして，かつ動詞も has に直す。不可算名詞として重要なものは他に，advice，information などがある。

(10) We had (a) little rain this summer.

「この夏はほとんど雨が降らなかった（少しの雨が降った）。」

○ rain は不可算名詞のため，形容するには a few ではなく little か a little にする。

B.

ポイント

形容詞には，名詞に直接付けて用いる「限定用法」と，補語として働く「叙述用法」の２用法がある。形容詞の中には，限定用法のみで用いるものや，叙述用法のみで使うものがある。また，be sure of …ing と be sure to *do* の相違や be afraid of …ing と be afraid to *do* の相違には注意すること。

解答・解説

(a) I am ／ Thomas「トーマスはきっとアカデミー賞を獲るだろう。」

○ be sure to *do* は「話者の確信」を表す。

○ Oscar「オスカー；アカデミー賞」

(b) Thomas is ／ he「トーマスはアカデミー賞を獲るのを確信している。」

○ be sure of …ing は「主語の確信」を表す。

C.

解答・解説

alone は叙述用法として用いる形容詞である。つまり，He is an alone person. という使い方はしない。他の形容詞は，もっぱら限定用法で用いる。

D.

解答・解説

atomic は限定用法として用いる形容詞である。つまり，This age is atomic. という言い方は原則としてしない。他の形容詞は，もっぱら叙述用法で用いる。

【2】

ポイント

同じ語が形容詞だけでなく他の品詞としても使われる場合がある。また，限定用法と叙述用法で意味が異なる形容詞があるので注意しておく。

解答・解説

（1） still

(a) 形容詞 still「じっとした」。「写真を撮る間はじっとしていなさい。」

(b) 副詞 still「いまだ，依然として」。「彼がまだ私を見ていることに気がついた。」

(c) 形容詞 still「静止した」。「デジタルスチルカメラは静止画像を撮るためのものだ。」

（2） present

(a) 形容詞（限定用法）の present は「現在の」の意味。「現在の日本国憲法は 1947 年に施行された。」

(b) 形容詞（叙述用法）の present は「存在した」の意味。「居合わせた人達が何をしゃべっているのか理解できなかった。」

(c) 動詞の present は「～を提示する；発表する」の意味。「本当の和食，つまり日本食を紹介したかったのです。」

（3） certain

(a) 形容詞（限定用法）の certain は「ある；一定の」の意味。「あなた方は皆，一定の目標を達成しなければなりません。」

(b) 形容詞（叙述用法）の certain は, be certain to *do* の形で「きっと…する」の意味。「誰にでも必ず死は訪れる。」

（4） late

(a) 形容詞（限定用法）の late は「故～」の意味。「故スミス氏は偉大な俳優だった。」

(b) 形容詞（叙述用法）の late は「遅れた」の意味。「スミス氏は会議に遅れた。」

（5） ill　※（a）は Ill とすること。

(a) 形容詞（限定用法）の ill は「都合の悪い；不幸な」の意味。「悪事千里を走る。」

○ apace「速やかに；同じペースで」

(b) 形容詞（叙述用法）の ill は「病気で」の意味。「現在も病気で床に伏しているとのこと，残念です。」

(c) 副詞の ill は「悪く；不十分に」の意味。「人前だといつも落ち着かない。」

○ at ease「落ち着いて」⇔ ill at ease「落ち着かない」

【3】

ポイント

語幹の同じ形容詞を覚えることは，受験生として決して避けては通れない。sensitive, sensible などは有名だが，他のものも含めてここでしっかりとまとめて覚えておこう。

解答・解説

（1） childish

「なんて子供っぽいのかしら。そろそろ大人になる頃じゃないの？」

○ childlike「子供のように無邪気な；純真な」，childish「子供っぽい；幼稚な」

（2） considerable

「東京で新築の家を買うには相当な額のお金が必要だ。」

○ considerate「思いやりのある」，considerable「かなりの，相当な」

※ considerable は「考えられる」という意味ではないので注意。

（3） continuous

「降り続く雨で気がおかしくなりそうだ。」

○ continual「断続的な；頻繁に起こる」，continuous「継続的な；引き続いた」

（4） imaginary，imaginary

「虚数 i は 0 の実数部と 1 の虚数部を持つ。」

○ imaginative「想像力豊かな」，imaginary「想像上の；架空の」，imaginable「想像しうる」

○ imaginary number「虚数」⇔ real number「実数」

cf. integer number「整数」，rational number「有理数」，irrational number「無理数」，complex number「複素数」

（5） respective

「それぞれの家にお帰りください。」

○ respectful「敬意を表した」，respectable「まともな；見苦しくない」，respective「それぞれの；各々の」

※ respectable は，「尊敬できる」とまでほめる意味はないので注意。

（6） sensible

「その政治家が賄賂を拒否したのは大変賢明なことだった。」

○ sensuous「感覚に訴える」，sensible「賢明な；分別のある；五感で感じられる」，sensory「感覚の」，sensitive「敏感な；感受性に富んだ」

○ bribe「賄賂」

（7） momentous

「今日は私にとって大変重要な日です。これをする機会をもらえるなんてラッキーですから。」

○ momentary「瞬間的な」，momentous「重大な」

（8） historical

「先生は私たちに，この理論の歴史に基づく説明をしてくれた。」

○ historical「歴史（上）の；史料となる」，historic「歴史的に重要な」

※ historical の方が適切だが，historic を historical の意味で使うこともあるため，この設問では historic でも完全な間違いとは言えない。

【4】

A.

全訳

我々は次のように言って結びとする。人口過剰は，かなり明らかに，我々に直面する最も深刻な問題の１つであり，我々が迫られている選択は，この問題を自然の成り行きにまかせて最も恐ろしい方法で解決されるがままにしておくか，さもなければ，生産を増やすと同時に出生率と死亡率の均衡をとり，また何とかしてこの問題についての国際的に一致した政策をまとめ，何らかの賢明で人道的な解決法を見いだすかのどちらかである。

B.

全訳

選択の自由に対する女性の意識が高まるにつれて，これまで女性のしてきたことや女性の立場の重要性には新しい可能性が与えられるだろう。このため，女性には自らの仕事に尊厳を与え，女性の伝統的な活動諸分野には高度な技術が必要であるという事実を認識し，これらの技術を専門家として身に付ける人々に敬意を払うという特別な責任があるのだ。

C.

全訳

この世に新しいものは何もなく，最も偉大な芸術家でもできるのはせいぜい，現存する要素の新しい配置を見つけ出すことだけだ。

D.

全訳

幼い子供たちの親は，子供が字を読み始め，上達していくことを，子供の教育的発達の中で最初の重要な段階だと考えているようである。しかし，子供が理解しながら読めるようになるまでには，読むように求められる語がその子供の話し言葉の語彙の中にすでにしっかりと定着していなければならない。早くから読めるようになる子供は，話し言葉の語彙が豊富に用いられている中で生活を送るような家庭出身であることが多いであろう。

E.

全訳

たいていの我々の見る夢には，ある共通の特徴がある。我々が目覚めている時の思考を支配する，論理の法則に夢は従わないのである。実際には決して同時に起こり得ない２つの出来事なのに，それらが同時に起こっている夢を見る。遠く離れた場所へ瞬時に移動したり，同時に２つの場所にいたりすることが夢では簡単にできるのである。実に，夢の中で我々は，肉体のあらゆる活動に制約を加える時間と空間とが何の力も持たない世界の創造者となるのである。

【5】

解答例

《例１》

ＡはＢの著作の書評を行ったが，Ｂはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。ＡはＢの偏見を認めながらも，Ｂの著作が嫌いでないこと，書評を軽々しく扱ってはいけないことを主張して，Ｂの誤解を解こうとしている。(99 字)

《例２》

ＡはＢの著作の書評を行ったが，Ｂはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。ＡはＢの著作が嫌いなわけではなく，また，Ｂに不公平呼ばわりされて傷ついていることを伝えてＢの誤解を解こうとしている。(93 字)

《例３》

ＡはＢの著作の書評を行ったが，Ｂはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。Ａはもし自分が書評を軽々しく扱っているように見えるならば，それは自分の不適切な文章の責任だと言ってＢの誤解を解こうとしている。(98 字)

解説

【指針】

事情：ＡはＢの著作の書評を行ったが，Ｂはそれに対する抗議をＡに書面で申し込んだ。

Ａの弁解：

１）私はＢの著作が嫌いなわけではない；

２）不公平呼ばわりされて心外だ；

３）私が偏見の持ち主であることは認める〔→偏見のない人間などいない〕；

４）私は書評を軽々しく扱っていない；

５）軽々しく扱っているように見える責任は私の文章表現の拙さにある。

↓

趣旨：Ｂの誤解を解くこと〔怒りをなだめること〕。

↓

上記の「事情」と「趣旨」を要約答案の「骨子」とし，制限字数を満たすために「Ａの弁解」の内容を付け加える：「骨子」の部分さえ含まれていれば，あとは１）～５）のどれを選んでもかまわない：

↓

「１；３；４」を用いる→《解答例１》

「１；２」を用いる→《解答例２》

「５」を用いる→《解答例３》

全訳

私はあなたに即座に返事を書かねばなりません。それはこれ以上にないほどに爽やかな晴天の午前に舞い込んできております。私は手紙によってではなく，あなたがこのテラスにいて，私が決して嫌悪などしていないあなたの著作について話をさせてくれたらばよかろうと思います。どんな印象を伝えるべきか，私の頭を悩ませるのは，思うがままに筆を走らせる —— すなわち言いたいことを言い尽くすのに足るだけの余地が書評にはないということです。これは本当に言い訳ではありません。しかし不公平呼ばわりされること —— それはひどく私を傷付けます。そしてそういうことによって，あなたは私が持っていてしかるべき程度の正直ささえ，持ち合わせていないと言っているように思われます。私は偏見を持っています。それは認めますが，我々はだれしも多かれ少なかれ偏見を持っていると思います。しかし誓って言いますが，私は書評することを軽々しく扱ってはおりません。そしてもし私がそのように見えるとすれば，それは私の不適切な書き方のせいなのです。

注

ℓ. 1 ◇ heavenly *adj.* = very pleasing「天（= heaven）にも届かんばかりの」
cf. heavenly body「天体」
◇ fair *adj.* = fine and dry；clear；beautiful

ℓ. 2 ◇ I wish（instead of writing）you were here on the terrace and you'd let me …which I far from detested.
○ wish ＋ 仮定法過去

ℓ. 3 ◇ detest *vt.* = dislike very much; hate/ far from = not at all
◇ What an impression to convey!
○後続の my trouble を具体的に説明する言葉として解釈した：筆者が書評を行なう際に常に頭を過ぎる言葉。

ℓ. 4 ◇ to get going「進行を得る」《直訳》
○辞書の記述を用いれば，"get going = begin going" であるが，文脈にうまく当てはまらないので，後続の to say …と同格と考えて適当な訳語を見繕い，fully はこれらの同格語句の双方を装飾すると解釈した。

ℓ. 6 ◇ might *aux.*《仮定法の婉曲表現》「～し得るように」
期待が満たされない不満を表明する。
Ex. He <u>might</u> offer to help.（彼は援助を申し出てくれてもよさそうなものなのに。）
◇ prejudiced *adj.* ＜ pre-〔= before〕＋ judgment「前もっての判断」
◇ well：expressing acceptance of a foregoing remark
◇ all of us：we の同格語句。

ℓ. 7 ◇cross my heart：used to emphasize the honesty of what one says「胸に十字を切る」

ℓ. 8 ◇ unfortunate *adj.* = unsuitable or regrettable

【6】

ポイント

形容詞の中には，人を主語にしないものや，人しか主語にしないような性質を持つものがある。さらには形式主語にした場合に that 節を取る形容詞や取らない形容詞などが存在する。

解答・解説

（1） **a**「あなたはラテン語を勉強する必要がある。」
○ difficult，easy，necessary，hard，tough，useful などの形容詞は，一般に人を主語にせず，'It is ＋形容詞＋ for A to *do*' の形式をとる。

（2） **c**「彼を楽しませるのは難しい。→ 彼は気難しい。」
○（1）に挙げた形容詞であっても不定詞の意味上の目的語を主語にした構文は作ることが出来るが，hard は It is hard that S V という形にならないのが通常である。

（3） **b**
○ happy，angry，disappointed，proud，pleased などは，人の感情を表す形容詞であるため，人を主語に取る。

【7】

ポイント

特定の形容詞はその後に取る前置詞が決まっている。これを間違えると全く違う意味になることがあるので注意が必要。

解答・解説

（1） about

○ be anxious about ～「～を心配する」，be anxious for ～「～を切望する」

（2） on

○ be keen on ～「～に熱心だ」

（3） of

○ be independent of ～「～から独立した」，be dependent on ～「～に依存した」

（4） of

○ be ignorant of ～「～を知らない」

（5） with

○ be familiar with ～「～について詳しい」

（= Psychological concepts <u>are familiar to</u> David.）

【8】

解答

（1） Since my family has become larger, I am going to add to my house.

（2） See to it that no one touches this picture.

（3） Are we all here?

（4） I'll arrange for you to meet the CEO.

（5） That's what friends are for.

（6） We can't leave Tom out.

解説

（1）

○「～なので」：理由を表す接続詞で代表的なものに，since ～ と because ～があるが，since の後には旧情報，つまり了解事項が来て，because の後ろには新情報が来る。言い替えれば，since は「理由の確認」，because は「理由の紹介」である。
本問ではどちらを用いてもよいが，自分の書いた文が何を意図しているかは理解しておく必要がある。

○「家族が増えた」：「私の家は大家族だ」を my family is large. と言うのを応用して，my family has become larger とするのがよい。

○「家の建て増しをする」：add を自動詞として用いると，add to ～で「～を増す」となる。この形は，建造物なら「～を増築する」となる。本問では，この形を用いる。
add の用例をあげておく。
Ex. The nice weather <u>adds to</u> a pleasure.（自動詞）
（天気がよかったので余計に楽しかった。）

Ex. If you add 4 to 5, you will get 9.（他動詞）

（5 + 4 = 9）　*cf.* add A to B「BにAを加える」

（2）

○「～するように計らう」「～するように気をつける」は See to it that ～. とする。または See that ～. で表す。～の部分には文が来る。なおこの it は文法的には仮目的語と呼ばれるもので，it = that 以下。また，that 節内では will は用いないのが原則。

Ex. Please see（to it）that the door is locked.

（ドアは必ず閉めておいてください。）

UNESCO aims at seeing to it that the knowledge of all nations is at the disposal of all.

（ユネスコの目的は各国民の知識を全世界が利用できるようにすることである。）

（3）

○「皆いますか」「これで全員ですか」と全員がその場にいるかどうかを確認する時の決まり文句は

ⓐ Are we all here?

we と all は同格関係で，最後の here を付けるのを忘れがちなので注意。

なお，

ⓑ Is everybody here?（皆いますか。）

ⓒ Is there anyone missing?（誰か欠けている人はいませんか。）

と言っても，言いたいことはほぼ同じである。

ⓒで用いられている missing は absent and unable to be found; not present when supposed to be の意味の形容詞で頻出。

Ex. We tried our best to find the missing person.

（行方不明者を捜そうと，できる限りの努力をした。）

the killed, wounded, and missing（死傷者と行方不明者）

There are some pages missing in this book.（この本は数ページ抜けている。）

（4）

○「Aが…できるよう手はずを整える」は arrange for A to *do* で表す。

（×）arrange A to *do* とはならない点に注意。

ここでは「整えましょう」となっているので，「その場での決断」よって will を用いなくてはならない。したがって，

I'll arrange for you to meet the CEO.

が正解。

arrange は入試で頻出するので，例文を補っておく。

Ex. I'll arrange | for a car to wait for you.
| that a car be waiting.　《仮定法現在》

（車が待っているように手配しましょう。）

arrange books on a shelf（棚に本を並べる）

arrange names in alphabetical order（名前をアルファベット順に並べる）

arrange a dispute between them（彼らの争いを調停する）

（5）

○「友達はそのためにいるんだから」を That's で書き出して for を用いる決まり文句は，
That's what friends are for.
である。

この That is what ～のパターンは頻出で，

ⓐ That is what he said.（彼はそう言った。）

ⓑ That is not what you said before.（あなたの言うことは矛盾している。）

のように用いる。

○文法的に言えばⓐ，ⓑとも is と what をとって再構築すれば

ⓐ' He said that.

ⓑ' You did not say that before.

となり，強調構文のようなものと言える。

○本問の That's what friends are for. は Friends are for that. の that を強調した構造と考えられる。friends が無冠詞の複数形であるのは「無冠詞の複数形は２以上無限大を表す」というルールからである。

○ for は「目的」を表す基本的な用法。

（6）

○「～を仲間はずれにする」というのは「～を友人のテリトリーから除外する」ということである。out を用いて「～を除外する」という表現と言われれば，leave out ～〔leave ～ out〕がすぐに思いつくはず。（なおこの out は副詞なので，代名詞であれば leave ～ out の形以外は不可である）

○本問は，leave out さえ知っていれば，

We〔You〕can't	leave Tom out.
	leave out Tom.

とできるはずである。

○また，leave の代わりに count を用いて

We〔You〕can't	count Tom out.
	count out Tom.

としてもよい。

今日の一言

A man's mind often gives him warning of evil to come.「虫の知らせ。」

evil to come の to come は evil を修飾する形容詞句（to 不定詞の形容詞的用法）で，evil は come の主語となるので「主語関係」とする文法書もある（例えば，He is the last person to tell a lie.（彼は嘘をつくような人ではない。）の to tell a lie も person という主語となる名詞を修飾する形容詞句であり同じ用法である）。つまり，「人の心はその人に，これから来るべき害悪の警告を与える」というのが直訳になる。日本語では「虫の知らせ」とも言うが，悪い状況になる場合には直感的に気がつくものなのかもしれない。試験直前に悪い虫の知らせが来ないように，勉強は先延ばしにせず今日できることを今日片付ける気持ちが大切である。